

具氏博物學  
 須川賢久譯  
 九

成  
 七  
 九

成  
 須川賢久譯  
 七

= 1  
 286  
 9





明 286  
9

東京  
農林  
圖書

貝氏博物學卷之九

第二綱

多節動物

此動物ハ有脊動物ニ非ルヲ以テ柔軟動物ノ如ク體中ニ骸骨ヲ具有セザル者ナリ其外部ハ堅硬ニシテ内部ニ筋アリ或ハ身體ヲ圍繞スル所ノ環ヲ具スル者アリ或ハ骸骨ノ用ヲ達スル所ノ肢ヲ有スル者アリ其腦ハ小ニシテ食道中ニ存在セリ多節動物ヲ分テ四目トナス即左ノ如

須川賢久 譯  
田中芳男 校

博物學  
卷之九  
一  
文部省



第一目 環蟲類 アミユラタ

第二目 蟹蝦類 クリユスタセア

第三目 蜘蛛類 アラレニタ

第四目 小蟲類 インセクタ

第一目 環蟲類

此目ハ「グヴ」ル氏ノ説ニ一個ノ網ト爲シテ數目數屬ヲ包有セリ「アミ」ラ「タ」ト云ヘル語ハ元來環ヲ具スル動物ト云ヘル義ナリ此環蟲類ハ其體柔軟ニシテ數環ヨリ成レル者ナリ

クワルム 蟲 卽 蚯蚓 アールトワルム 此動物ハ世人ノ熟知セル者ニシテ

地中ニ住ミ體軀ヲ螺旋狀ニ圍繞シタル筋ヲ以テ能ク地上ニ蜿蜒シ好ミテ卑濕膏沃ノ土泥ヲ餌食ス脊上ニ數箇ノ孔アリテ之ヨリ呼吸シ腦骨、足、目、耳等ヲ有セズ此動物ハ卵生ニシテ其卵ハ十二日乃至十四日間ニテ孵化シ二年乃至三年ノ齡ヲ保ツ者ナレモ常ニ鳥類ノ好ミテ餌食スル處トナル者多シ

水蛭 ヒル 此奇ナル動物ハ瀝潦及流水ニ棲息シ形體ハ蚯蚓ノ如クシテ迅速ニ水中ヲ運動スル者



ナリ通常亞米利加ニ産スレドモ吸血ノ用ニ供  
 スルモノハ多ク歐羅巴ヨリ船齋セリ蓋歐羅巴  
 産ノ者ハ其性敏捷ニシテ功能多シ水蛭ノ口ハ  
 二個ノ唇(但シ一ハ皮ヲ刺ス器一ハ血ヲ吸フベ  
 キ器ナリ)ト血ヲ吞ムベキ喉トヲ以テ成ル此唇  
 喉ハ纖維質ニシテ柔軟撓ミ易キカ故ニ其遇フ  
 處ノ物體ノ形狀ニ緊然附着ス又皮ヲ刺ス器ハ  
 其形三稜ニシテ口内ニアリ顯微鏡ヲ用井ザレ  
 バ見ル可ラザル小銳齒ヲ具ス舌ハ甚小ニシテ  
 創口ヨリ血ヲ吸ヒ上グベキ嚙子<sup>ミグキ</sup>ノ用ヲ達ス其

吸飲シタル血ハ數個月間水蛭ノ體中ニ停滯シ  
 テ竟ニ其皮孔ヨリ蒸發スルモノナラシ又水蛭  
 ハ水器中ニ在テ食物ナシト雖モ數月乃至數年  
 間生存シ得ヤシ  
 醫文ニ記載シタルモノハ尋常褐色水蛭ニシテ  
 身長二寸乃至四寸許ナリ馬蛭<sup>ホウマ</sup>ハ之ヨリ大ニ其  
 テ性貪食ナリ尚其他水蛭ノ種ハ大小數多アリ  
 亞細亞洲某地方ノ池中ニハ水蛭甚夥多ニシテ  
 世人ハ茲ニ浴スル者頗危険ナリト云フ  
 線蟲<sup>イシムトヒ</sup> 此動物ハ淡水又ハ水氣アル粘土中ニ居

線蟲<sup>イシムトヒ</sup> 此動物ハ淡水又ハ水氣アル粘土中ニ居



リテ形狀ハ恰モ馬尾ノ毛ニ似タリ若シ之ニ觸  
レバ其體ヲ卷換シテ糸ノ結頭ニ鬚鬚タル種々  
ノ狀態ヲ爲スモノナリ

第二目 蟹蝦類

此蟹類ハ多節ノ足ヲ有スル多節動物ニシテ其  
體ヲ包圍スルニ多少石灰質ヲ含蓄シタル堅硬  
ノ甲ヲ以テス而シテ屢此甲ヲ變換シ大概ハ肉  
食ニシテ水中ニ生スルモノナリクリヌスレ氏ノ  
著書ニハ此蟹蝦類ヲ一網トナシ其中ニ數目數  
屬ヲ列載ス

蟹屬 此屬ハ其種數多アリテ或ハ陸地ニ棲ミ  
或ハ海中ニ住ス皆其甲ヲ脫棄スルモノナリ尋  
常蟹ハ性極テ争鬪ヲ好ミ螯ヲ奮テ敵手ヲ握把  
スル時ハ肯テ之ヲ放タズシテ却テ其螯ヲ失フ  
コト多シ尋常蟹ハ各所ノ海濱ニ産シ砂ヲ穿テ其  
穴中ニ住レ汚穢ナル緑色ニシテ憤激スルキ  
ハ赤色ニ變スル者ナリ陸地蟹ハ其種數多アリ  
テ大小形色同一ナラズ  
蟹類中ノ主眼ナルモノヲ紫色蟹トス此蟹ハ其  
畸異ナル形體ト旨美ナル肉味ト奇怪ナル習作



トニ因テ甚著名ナリ其餌食ハ木葉果實朽木等  
 ニシテ能ク齒ヲ以テ之ヲ噬斷スト云フ又此蟹  
 ハ伴ヲ結ヒテ山中ニ棲息スレドモ一年一回其  
 卵ヲ産ム爲ニ海邊ニ向ヒテ出陣ス其行ヲ啓ク  
 ヤ巖石ノ罅隙或ハ土中ノ孔穴等ヨリ突然群ヲ  
 爲シテ現出シ直ニ海邊ヲ望テ行進ス而レテ河  
 流ニ沿ヒテ道ヲ轉スルノ外更ニ其企望シタレ  
 方向ヲ誤ルコトナレ此行軍ヲナスニ通常雨夜ヲ  
 以テシ大凡三大隊許ナリト云フ  
 兵卒蟹即寄居蟲ハ前種ト同ク年々海邊ニ出テ

其介殼ハ大ナルモノヲ見レバ己レガ介殼ヲ脱  
 シテ之ニ上變換スル者ナリ其變換ヲ爲スヤ海濱  
 ニ散在シタル散殼ヲ轉廻レテ一々之ヲ檢査シ  
 其身體ニ恰好穩當セサレハ又去テ他殼ヲ檢査  
 ス斯ノ如クスルコト數回ニシテ遂ニ適當シタル  
 介殼ヲ認得セシトキハ直ニ舊殼ヲ脱棄シテ明  
 年ニ至ルマデ新殼中ニ棲息ス  
 大頭蝦屬 大螯 此屬ハ非凡ノ形體ヲ有スル  
 者ニシテ頭前ニ突出シタル螯ヲ以テ運動シ口  
 ハ大ニシテ二個ノ齒ヲ具シ尾ハ多節ニシテ其



運動ヲ扶ケ體ハ毎年變換スベキ堅硬ノ殼ヲ被  
 レリ其殼ヲ變換スルヤ甚參痛ナル舉動ニシテ  
 劇シキ運動ヲ爲シ遂ニ之ヲ脫棄ス爾後數時間  
 ハ頗衰弱レテ動クヲ能ハズ仇敵ノ爲ニ侵襲セ  
 フル、トアリ然レドモ大概二日間ニシテ新殼  
 全ク成リ強壯ニ復レテ勇氣ヲ發シ巖石内ノ潛  
 伏場ヨリ水底ニ現出シテ屢爭鬪ヲナシ其螯ヲ  
 失クニ至ル者アリ此屬ハ魚仔ウチノタビ小介類ヲ砂中ヨ  
 リ掘リ出シテ之ヲ餌食ス又此屬ノ種ハ數多アリ  
 テ身長二寸乃至三寸許ノモノヨリ二尺乃至

三尺許ノモノアリ大頭蝦ハ亞米利加及歐羅巴  
 ノ海岸ニ夥多生産シテ大抵ハ食料ニ供スル者  
 ナリ

蜷蛄ガリカニ  
クラウビス 此動物ハ淡水ニ棲ミテ大頭蝦トハ少ク  
 異ル者ナリ

河蝦フリンフ 此動物ハアスタクリススノ種類ニシテ六  
 個ノ脚ト長尾トヲ具シタル最小ノモノナリ此

種類ハ特ニ英國ノ海濱ニ夥多ニシテ其味ノ美  
 ナルカ爲ニ甚貴重セリ

青蝦シラカシ 此小動物ハ上方ニ曲リタル長鼻ト六個



ノ鬚ト五個ノ節アル尾トヲ具スル者ニシテ各所ノ海濱ニ棲ミ歐羅巴ニ於テ食料ノ爲ニ之ヲ捕フルヲ莫大ノ數ナリ

ワザシ鼠婦 ウツロニス 此小動物ハ地窖、舊屋、石下等ト暗所ニ棲息シ好シテ木材及古キ窓格ニ穴ヲ穿ツモノナリ

昔時ハ之ヲ藥料ニ供シテ瘧及勞症ヲ治スル者ト假想セリ又世俗ニテ之ヲ猪蝨、蒙蝨ト名ケ

其種中ニハ水中ニ生スル者アリ

第三目 アヲレニカ 蜘蛛類

此目ハアケール氏ノ說ニ從ハバ一個ノ綱ニシ

テ其目中ニ數多ノ屬ヲ包有セリ其屬ハ皆小蟲類ニ酷肖スレドモ翼ヲ有セスレテ形體ヲ變換スルヲナク脚ハ動搖ス可クシテ通常其尖ニ二

個ノ鉤ヲ有セリ又此目ノ動物ハ大概小蟲類ヲ餌食スレドモ某種ハ麩粉、乾酪及數種ノ植物ヲ食フモノアリ

蜘蛛屬 此著明ナル屬ハ彎曲レタル八個ノ脚ト八個ノ目ト口上ニ八個ノ螯ヲ有スル者ニシ

テ皆卵生ナリ亞米利加ニ産スル蜘蛛ハ小ニシテ害ヲ爲サバレドモ熱國ニ産スル者ハ大ニ鷄

食フモノアリ

蜘蛛屬 此著明ナル屬ハ彎曲レタル八個ノ脚ト八個ノ目ト口上ニ八個ノ螯ヲ有スル者ニシ

テ皆卵生ナリ亞米利加ニ産スル蜘蛛ハ小ニシテ害ヲ爲サバレドモ熱國ニ産スル者ハ大ニ鷄

食フモノアリ



卵ノ如クシテ毛ヲ被リ間人ヲ咬噬シテ甚危険  
ナリ又蜘蛛ノ種中ニハ小鳥ヲ殺害スル巨大ノ  
者アリ或ハ蠅及他ノ小蟲類ヲ餌食スル小ナル  
者アリ

蜘蛛ハ其餌食スベキ物ヲ捕ヘンガ爲ニ蛛網ト  
名クル係蹄ヲ造作ス此蛛網ノ絲ヲ紡ク爲ニ四  
個ノ節ヲ具備シテ其各節ニハ針尖ヨリ細微ナ  
レ千有餘ノ孔穴ヲ有セリ此各孔穴ヨリ護謨質  
ノ一條絲ヲ縑出ス故ニ蛛網ノ各絲ハ單一ノモ  
ノニ非ズレテ四千箇以上ノ絁子ヨリ集成シタ

ルモノナリ又其蛛網ノ絲中ニハ甚纖細ニシテ  
四百萬絲ヲ合聚スルモ尚人ノ頭毛ヨリ太カラ  
ザルモノアリ然レドモ此各絲ハ皆四千ノ絁子  
ヨリ成リタルモノナリ

蜘蛛ノ蛛網ヲ造構スル法方ハ其種類ニ因リテ  
同一ナラザレドモ各皆驚クベキ技術ヲ顯ス者  
ナリ或ハ小川溝渠ヲ渡リ或ハ甲木ヨリ乙木ニ  
往來スベキ橋梁ヲ架シ或ハ高ク空中ニ浮游シ  
或ハ陰ニ地下ニ潛藏ス水蜘蛛ハ水泡中ニ住居  
ヲ構フルモノニレテ水上ヨリ之ヲ望メハ輝々



トシテハ  
トシテハ  
トシテハ

トシテハモ水中ニアル銀球ノ如シ又他種ハ自  
筏ヲ造リテ水上ヲ奔走シ海賊ノ如ク其見得ル  
處ノモノヲ餌食ス

毒蜘蛛 此毒アル蜘蛛ハ以太利ニ産レテ體ノ  
大サハ栗ノ如ク大概ハ洞穴中ニ棲息スルモノ  
ナリ

蠶尾蟲即蟹 此動物ハ甚醜ナレトモ形體ハ大  
頭蝦ニ類似シニ手八脚ヲ具シ尾ハ多節ニレテ

其尖ニ小蟲類ヲシテ大ニ恐怖セシムル處ノ曲  
リタル刺劍ヲ備ハタリ此動物ハ通常墟址及暗

所ノ石下ニ潜伏レ其尾ヲ脊上ニ負テ速ニ驅走  
スル者ナリ歐羅巴ニ産スル者ハ身長ニ寸乃至  
三寸許ナレドモ亞非利加及東方諸國ニテハ身  
長一尺許ニ成長スルモノ往々之アリ人物ヲ嚙  
メハ劇毒ニレテ死ニ至ル者少カラズ性猛惡ニ  
レテ争鬪ヲ好ミ屢同種ノモノヲ殺害ス通常ハ  
蟲類小蟲類ヲ餌食スレ其種數多アリテ其色  
同一ナラズ

酪蟲 此屬ハ其種數多アリテ皆能ク子ヲ生シ  
或ハ乾酪及腐敗レタル肉類ヲ食ヒ或ハ小蟲類



ヲ食フ者ナリ又疥癬ノ如キ疾病ノ根元ハ此屬  
ノ特別ナル種類ニ歸スト云フ  
壁蝨ダニ 此小動物ハ常ニ其後脚ヲ以テ體ヲ樹枝  
ニ懸ケ繁茂セル樹林ニ栖處レ其下ヲ往來スル  
犬馬羊等ノ體ニ固着レテ深ク肉中ニ入ル故ニ  
之ヲ取り出スニハ只其附着レタル部分ヲ破ル  
ノ

第四目

小蟲類

小蟲類 元來小蟲即「インセクタ」ト云フ語ハ截  
斷ノ義ニレテ小蟲類ハ二部ニ剖分レタル如キ

形體ヲ有スルニ因リ此語ヲ採テ以テ「インセク」  
ト即小蟲ト名ク此「インセクタ」ト云フ語ノ意味

第千六十八圖



小蟲類  
インセクタ

ハ廣クレテ蟹蝦類、蠶尾  
蟲並ニ蜂類、黃蜂類、蠅類、  
蚊類、蝴蝶類、蛾類、蟻類等  
ヲ包有スレドモ吾輩ハ  
「クヴァー」ル氏ノ分類法ニ  
從ヒ小蟲類ノ目ニハ只  
後ニ記レタル蜂類ヨリ  
蟻類ニ至ルマテノ數種



ヲ列スルノミ小蟲ノ體ハ鬚、目、口ヲ備フル頭ト  
 足及翼ヲ附着スル胸ト胸ノ下ニ懸リタル下胸  
 トノ三部ヨリ成立スル者ニシテ心臟ニ似類シ  
 タルモノアレドモ必心臟タルヤ否未分明ナラ  
 ス  
 小蟲類ニハ眼ノ種類二個アリ一ハ單純ニシテ  
 平滑ナリ一ハ顯微鏡ノ如キ數鏡ヲ以テ造構セ  
 リ蝴蝶ノ眼ハ一萬七千二百三十五鏡ヲ有ス又  
 小蟲類ノ聽官ハ充分備ハラズレテ且ツ肺臟ナ  
 シ又固有ノ聲音ヲ發セザレドモ能ク聲ヲ發ス

ベキ機ヲ具セリ呼吸ヲナスハ體ノ兩側ニ  
 二個ノ管ヲ以テス總ヘテ小蟲類ハ物品及動植  
 物ノ諸種ヲ餌食スレドモ各其好嗜スル物アリ  
 小蟲類ノ説話中ニテ最著ルキ一ハ甲ノ形  
 狀ヨリ乙ノ形狀ニ變換スルコトナリ故ニ此類  
 ハ最初ニ卵ヨリ孵化シ形容ヲ變シテ蠋フナバ又蝓カクレヒラ  
 ト爲リ第二ニ蛹多クト成リ第三ニハ充分成長シ皮  
 ヲ脱シ翼ヲ生シ種類ニ從ヒテ蝴蝶、燈蛾、蜂、蟻ト  
 成ル者ナリニハ至リ

吾輩地球ノ各所ニ於テ見タル處々蠋ノ形體ハ



數多アリ石及木葉ノ下ニ居ル某種ハ微少ナリ  
 他種ハ身長一二寸乃至三寸許ニシテ皆小蟲類  
 ノ卵ヨリ生スル者ナリ此卵ヨリ生シタルモノ  
 ヲ往々ジムレ蟻アリ蠶サナバトト名ヅクレドモ通常毛ヲ被リタル  
 者ハケムシ蛄カ蠍サシト稱ス蟻アリ蠶サナバト及蛄カ蠍サシノ過半ハ鳥類ノ爲  
 ニ餌食セラレハナリ  
 小蟲類ハ甚短命ニシテ雙親能ク其兒子ヲ見ル  
 下ノ機會ヲ得ルハ甚稀ナリ故ニ胎生動物ノ如  
 ク兒子ニ乳ヲ哺セズ又鳥類ノ如ク卵ヲ孵スベ  
 キ性ヲ發動セス是ヲ以テ小蟲類ノ各種ハ皆兒

子ヲ注意スル下ノ勢カヲ賦與セラレサル者ナ

リ  
ムカデ蜈蚣セシレデス屬 此屬ハ小ナル蛇類ニ酷肖シ殼様ノキ

ノヲ被リ數多ノ足ヲ具シ之ヲ以テ迅速ニ走リ

若シ之ニ觸レバ體ヲ捲キテ球狀ヲナス者ナリ

此屬ハ通常石及糞堆ノ下ニ居ル熱帶地方ニ産

スル者ノ其形犬ニシテ人ヲ咬メハ毒アリ又英  
 國ニ産スル一種ハ夜間殆ト螢ニ等シキ燐光ヲ  
 放チ身長ハ一寸ノ四分ノ三ナリ  
イラミ蠟ロリス屬 此屬ハ其種數多アリ動植物各其體ニ固



第十六十九圖



顯微鏡ニテ見タル蟲

ルヲ甚速ニシテ直ニ計算スベカラサル多數ニ

第十七十圖



顯微鏡ニテ見タル蚤

至ルト云フ  
此小蟲ハ世人ノ善認知セル者ニシテ小頭ト二個ノ鬚ト人及動物ノ血ヲ吸フベキ一個ノ管ト相互ニ拱合スベキ六個ノ脚トヲ具シ其跳

躍スル時ハ此六脚ヲ齊ニ反回シ體ノ直徑ニ

百倍ノ距離ヲ跳過スベシ蚤ノ跳躍スル比例ヲ

以テ馬體ト大小ヲ比較スルニ若シ馬ヲレテ蚤

ノ如クニ跳躍セシメバ一躍シ以テ波士敦ヨリ

紐柯連ニスニ達スベシ

叩頭蟲即スナツピングビグ此有翼小蟲ハ世人

ノ認知セル者ニシテ常ニ花卉植物樹幹等ニ居

リ其種數多アリ此小蟲ヲ捕ハテ之ヲ仰臥セシ

ムレハ上ノ方ニ跳リテ故ノ位置ニ復スル者ナ

リ南亞米利加ニ産スル發光叩頭蟲ハ身長一寸



餘褐色ニシテ胸部ノ兩側ニ光澤アル斑點アリ  
 夜間ハ此斑點ヨリ著ルキ光ヲ放ツ南亞米利加  
 ノ婦人ハ此蟲光ヲ用井テ職業ヲ爲シ或ハ之ヲ  
 頭髮ハ飾ニ供ス又亞米利加ノ土人ハ此蟲ヲ足  
 ニ結ヒ附ケ其光ニ因リテ夜行ヲナスト云フ  
 螢ホタル 此小蟲ハ夜間光ヲ放ツ者ニシテ男女性ヲ  
 異ニシ男ハ甲蟲ニシテ隨意ニ飛翔シ女ハ只匍  
 行スヘキ小蟲ナレドモ詩人ノ之ヲ賦スルカ爲  
 ニ甚著名ナリ螢類ハ夏間日没ノ後ニ牧地路側  
 數中等ニ栖處ヒリ螢類ノ尋常ナル諸國ニテハ

其牡ヲ發火木虱ト名ク合衆國ニテモ夏時ノ晚  
 暮ニハ恰モ燃火ヨリ發ル火花ノ如ク螢ノ空中  
 ニ飛翔スルヲ見ルベク又其牝ハ晝間草中或ハ  
 木葉中ニ隱ル者ニシテ牝ハ牡ヨリ光輝ヲ放  
 ノト著ルキハ蓋其牡ノ心目ヲ動サシムル爲  
 ト想像セリ又其牝ハ隨意ニ光ヲ發スル者ナ  
 トモ其根元ハ未詳ナラス  
 死鏢蟲 此小蟲ハ淡黒多毛者ニシテ身長一  
 寸ノ四分ノ一許ナレ其體ノ小ナルニ似スシテ  
 時辰鏢ノ轉スルニ類セル音ヲ發スルニ因リ愚



十才鳥 卷九

民ヲレテ恐怖セシムルノ源因トナレリ蓋此  
音ヲ聞キタル家ニテハ家族中ニ死人アル前兆  
トレテ大ニ之ヲ恐ルト云フ此音ハ頭ノ尖ニテ  
堅硬ナル物體ヲ拍ツカ爲ニ發スルモノニシテ  
絶テ怪ムベキナレ其敲拍ヲナスヤ先ツ其體  
ヲ起シテ後脚ノ上ニ置キ之ヲ舂キテ強ク堅硬  
ノ物體ヲ敲クナリ其敲數ハ大概七個乃至十一  
個續クト云フ

龍眼鵝 ランテレン 此小蟲ハ夜間小ナル蠟燭ノ如ク輝ク  
處ノ頭ヲ有シ南亞米利加ニ産スル者ニシテ特

第十七十一圖



龍眼鵝 ランテレン

トレテハ暗夜旅行ヲナス人此蟲  
數類ヲ集メテ火把ニ代用スル  
アリ又世俗ニテハ叩頭蟲及螢等  
ヲ總稱シテ發光蟲ト唱フルナリ  
甲蟲 ビートル 此名稱ハ甲蟲類ノ目ニ屬  
スル數多ノ小蟲類ヲ包有セリ此目ヲ分テ數屬  
トス皆地中ニ居住ノ際ニ方テ自其翼ヲ摩擦歷  
碎センヲ防ク爲ニ翼外ニ外套ウレオホヒヲ有セリ外套  
ノ大小ト色彩トハ各異ナレドモ他ハ皆類似シ  
陸地ニノ住スルモノアリ或ハ水陸兩生ノ者



十少...

アリ其主眼ナル者ハ大牡鹿甲蟲ダイヤモンド金剛石甲蟲ダイヤモンド埋

葬甲蟲ダイヤモンド象甲蟲ダイヤモンドナリ

大牡鹿甲蟲ダイヤモンド即鍬形蟲クワガタムシ名和

黒褐色ナリ其腮ハ牡鹿ノ角ニ肖タルヲ以テ之

ヲ大牡鹿甲蟲ト名ク此蟲ハ餌食ヲ索ムルカ爲

ニ只薄暮ニ至リテ飛翔スルノニ金剛石甲蟲ハ

黒色トニ緑色ト金色トヲ帯ビ極テ美麗ニシテ

南亞米利加ニ産ス又印度ニ産スル此種ノ外套

ハ恰モ指環及胸飾ニ嵌入シタル寶石ノ如ク爛

然タル金色ノ帯ヲ有セル美麗ノ緑色ナリ

埋葬甲蟲

此最奇ナル黒色甲蟲ハ其子ヲ養フ

爲ニ他動物ノ屍ヲ地中ニ埋藏スル習作アルニ

因リ之ヲ埋葬甲蟲ト名ク其勞作ヲ成就スル勢

カハ實ニ驚怪スベシ凡死體ヲ見レハ其直下ノ

地ヲ穿チテ穴ヲ掘リ之ヲ穴中ニ陥レテ其上ヲ

蓋フト云フ此甲蟲ニ頭ニシテ十二

時間ニ能ク一蛙ノ死體ヲ埋葬ス象

甲蟲即飛生蟲カブトムシハ南亞米利加ニ産シ

身長一寸餘ニシテ其頭尖ニ突出セ

ル長鼻ヲ有スルニ因リ之ヲ象甲蟲

第千七十二圖



埋葬甲蟲



ト名ク甲蟲中ノ最大ナルモノニシテ蟹類ノ甲ニ似タル黒色ノ厚甲ヲ被レリ蓋甲蟲ハ其種數多ナレドモ合衆國ニテ世人ノ熟知シタルモノハ甚尋常ナル「チンブル、ビグ」ナリ

光青 アラシノウ 此蟲ハ佛蘭西及西班牙ニ居リ秦皮連翹 トチリコレンゲ

等ノ葉ヲ餌食シ光澤アル帶金綠色ニシテ著ルキ臭氣ヲ放チ藥種ニ供レテ專發胞膏ニ用ヰル者ナリ朝來此蟲ノ身體自由ナラサルトキニ方テ樹下ニ布ラシキ樹木ヲ披拂レテ之ヲ捕フト云テ

紅娘ハシツルムシ即カビク牛木虱 此小蟲ハ通常草木ノ上ニ居

リ世人ノ熟知セラル者ニシテ黒色ノ班點ヲ帶ル赤色ナリ

蚬カキ 此小蟲ハ卵ニリ孵化レテ暫時間蟲ノ如キ形ヲナレ卒ニ翼ヲ生シ數日ニシテ死ス此小

蟲ハ花園ノ花ヲ害スルノ外更ニ害ヲナサザルモノニシテ其善ク世人ノ耳内ニ入ルト云フ

ハ全ク無根ノ妄説ナリ

蜚蠊 アフラムシ 此動物ハ世界中ノ最惡性ニシテ厭惡スベキ小蟲類ノ一ナリ其種數多アレドモ皆敏捷



ニシテ夜間ノモノトス古キ家屋ノ柱又ハ箱ノ脊等ニ群集シテ衣服書籍紙類等ヲ損害ス巨大蜚蠊ハ亞細亞亞非利加南亞米利加ニ居リテ大害ヲナス者ナリ

黃砂性 此小蟲ハ往々ドルビーテルメービグト名クル者ニシテ其形ヲ變スル一其奇ナリ數年間ハ地中ニテ植物ノ根及草類ヲ貪食シテ雙眼ナク只其行進ヲ指示スベキ二個ノ鬚ヲ具スルノミ四個年ヲ經レバ則チ變シテ多用黃砂性トナリ木葉ニ損害ヲナス甚ク而テ其適當

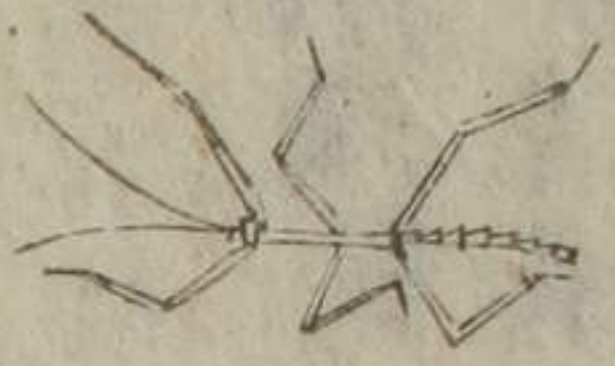
ヤル季候ハ間々ニ生活シテ速ニ死ス又時々テハ大數群集シテ其通路ニ生スル植物ヲ蝕盡スルアリ

遊葉蟲屬 此屬ハ枯槁シタル木葉ニ類似シテ印度ニ産ス速ニ退色スベキ美麗ナル綠色ニシテ頸ハ頭ヨリ長ク脚ハ六個アリテ各節アル者ナリ

螳螂屬 此奇ナル屬ハ主トシテ暖地ニ棲息シ往々身長三寸許ニ成長シテ或ハ之ヲ木葉蟲活動葉蟲ト名ク此屬ハ其棲息スル處ノ植物ト一



第七十三圖



ナラシ  
一名 タケノフシ

リト又此蟲ハ他ノ小蟲類ヲ餌食シテ之ヲ殺害  
スルトキヤ甚ニキ勇氣ヲ顯ス者ナリ  
又此小蟲ハ其變種無數ナリ皆地中ノ孔穴  
ニ産シタル卵ヨリ孵化シ數日間ハ蟲類ノ形狀

色ナル者ニシテ植物ノ一部分カ  
ト誤認シ易シ又昔時ハ世人此屬  
ニ就テ數多ノ疑迷ヲ抱キレト云  
フ古昔ノ記者曰ク童子此蟲一相  
逢フ而テ道ヲ問ヘバ則チ其前脚  
ヲ伸長シテ善ク道ヲ教フル者ナ

第七十四圖



蝻斯

ヲナシテ棲息シ他ノ小蟲類ト均シ  
キ勤勞ヲナシテ徐々ニ行步シ然ル  
後其上<sup>ウカハ</sup>皮ヲ破リ翼ヲ具ヘテ再出シ  
牧場ニ群集シ能ク風景ヲシテ快活  
ナラシム蝻斯ハ大概夏間噪鳴スル  
者ニシテ日没ニ際シ殊ニ甚シ其餌

食ハ皆草類ナリ

「カチービド」此蟲ハ最<sup>モ</sup>快樂ナル小蟲類ノ一ニ  
シテ其腿ヲ摩擦シテ好調ノ音聲ヲ發スル者ナ  
リ



此小蟲ハ形體蝨スニ類似シテ其種數多  
 アリ皆帶銹褐色ニシテ或ハ家屋ニ棲息シ或ハ  
 郊野ニ棲息ス烟筒蟋蟀即尋常蟋蟀ハ冬間竈ノ  
 邊ニテ音聲ヲ發スル者ニシテ性寒冷ヲ恐シ火  
 邊ヲ去ルヲ稀ナリ且頗貪食ニシテ麵包、砂糖、麩  
 粉等ヲ餌食シ氣候嚴寒ノ時ニ非レハ決シテ鳴  
 キ止ムヲナシ野生蟋蟀即油胡盧オニユホロギハ日没後ニ顯  
 レ其穴口ニ坐シテ聲ヲ發スル者ナレドモ性怯  
 怕小心ナルカ故ニ世人之ヲ見ルヲ甚稀ナリ  
 蝗蟲ロウキョウ即草蝨バクダ此小蟲ハ其種數多アリ其種ハ身

長六寸許アレ他種ハ纔ニ一寸ニ過キス此種  
 類ハ世界ノ各所ニテ世人ノ善ク認知セル者ニ  
 シテ特ニ暖國ハ大ニ之ヲ怖ルナリ亞細亞及  
 亞非利加ニテハ蝗蟲ノ植物ヲ損害スルヲ非常  
 ニシテ之ガ爲メニ廣大ナル飢饉ヲ來スヲ往々  
 之アリ千七百九十七年ニハ此蟲南亞非利加ノ  
 地方大凡二千四百里ヲ被覆シ近傍ノ青々タル  
 草類ヲ食ヒ盡シテ終ニ強風ノ爲ニ海中ニ放逐  
 トラレタリ此時海濱五十里ノ間其屍堆積シテ高  
 サ三尺乃至四尺ノ山丘ヲナシ遂ニ腐敗セルニ



因リ空氣ヲ汚レタルヲ百五十里ヲ隔タル地方ニ達セシト云フ

東方諸國ニ産スル尋常蝗蟲ハ身長三寸許即聖

經ニ記載スル所ノ者ナリ而シテ其羽化セザル

ノ間ハ思フニ此蝗蟲ヨリモ更ニ甚シキ損害ヲ

ナスモノナラン亞非利加ノ巴爾巴利國ニテハ

鹽ヲ注テ蝗蟲ヲ煎燒シ之ヲ食用ニ供ス其他東

方ノ諸國モ亦之ヲ食スル者アリ

臭蟲即寢床木虱ビユク此厭惡スベキ小蟲ハ家婦ノ

懶惰ナル家ノ床ニ生ジ人ヲ惱ス者ニシテ其體

ハ三部ニ分レ二個ノ褐色小眼ヲ有シ翼又其セ

ザル者ニシテ其種頗多シ又合衆國ノ庭園ニ尋

常ナル南瓜臭蟲スコウアスビユクハ惡シキ臭氣ヲ放ツ爲ニ著名

ニ屬ス野臭蟲ヒールドビユクハ翼ヲ有スルモノニシテ其種甚

多シ其最大ナルモノヲビユクトシテ其種甚

三寸許性貪食有害ノ者ニシテ蛙類、鳥類、魚類等

ヲ食フ

呀爛蟲コレナレンシキ此小蟲ハ植物上ニ棲息スル者ニシテ

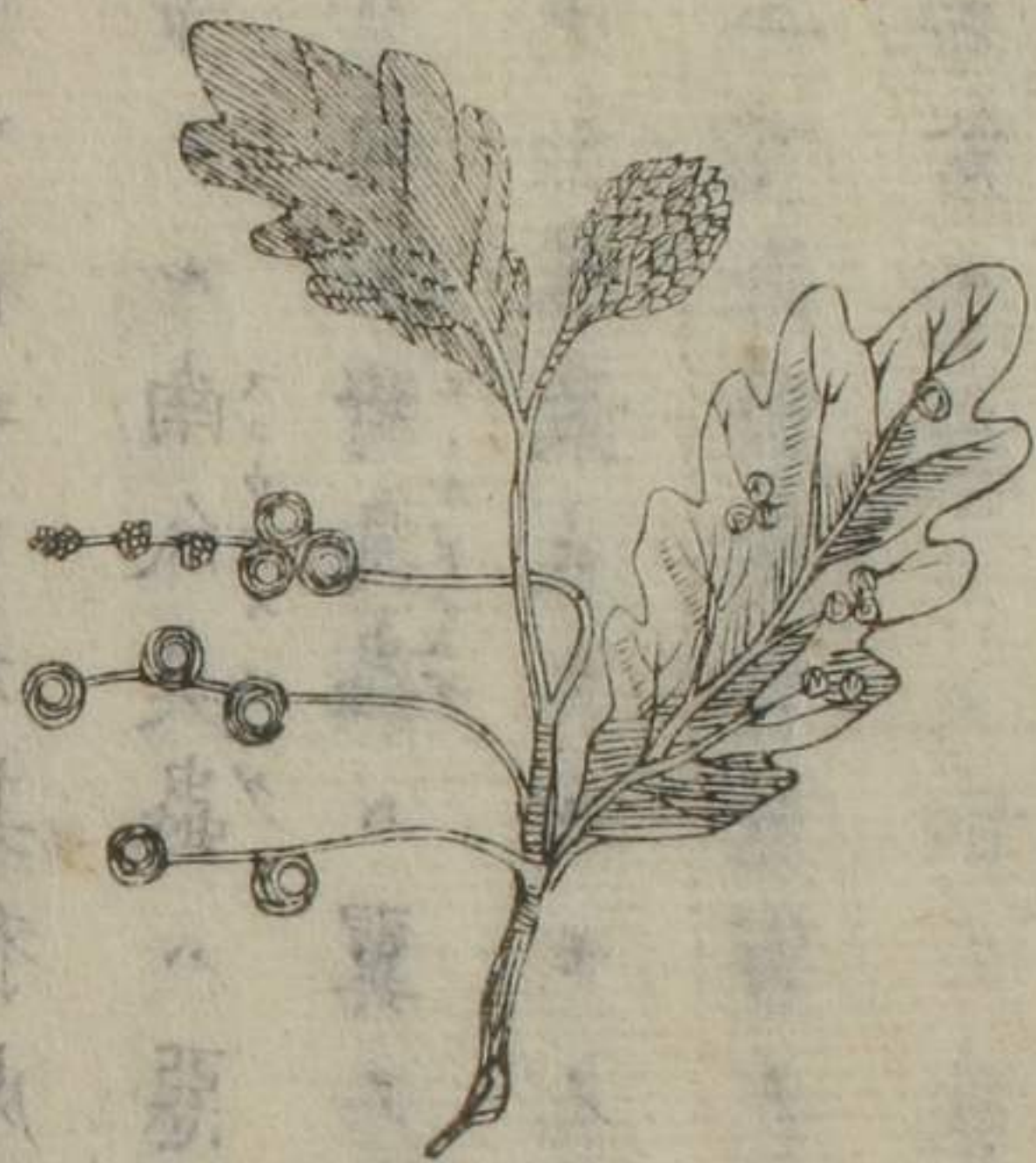
韋ナシガ及他ノ物品ヲ染ム可キ紅染料ノ洋紅ヲ製ス

ル爲ニ有名ナリ墨西哥及南亞米利加ニテハ盛



ニ之ヲ畜養スト云フ

第一千七十五圖



柵樹ニ附着セル没食子

没食子蟲 此小蟲ハ  
ガリンセクト  
爛蟲ト同屬ニシテ亞細  
亞ニ生スル柵樹ニ附着  
セル處ノ瘤ノ如キ物ノ  
中ニ在テ生育ス蓋此瘤  
様ノモノハ柵樹ノ皮ニ  
穴ヲ穿テ其中ニ卵ヲ生  
スル一種小蜂ノ造構セ  
ルモノニシテ此樹ノ液

汁其卵ニ附着スルニ因リ堅硬ト成リテ樹ト共  
ニ成長レ遂ニ世人稱スル所ノ没食子トナル且  
此蟲ハ中空ナル瘤ノ如キモノノ中ニテ孵化シ  
漸々生長シテ蛹トナリ又小羽蟲ニ變レ此瘤様  
ノ物ヲ啣破レテ終ニ其外面ニ出ツト云フ  
蜻蜓トシギ 此蟲ハ小蟲中ノ大ナル者ニシテ合衆國  
トラスコンスライ  
ニ尋常ナリ恰モ紗ノ如キ四個ノ翼ヲ具シ頭ハ  
大ニシテ圓ク體ハ長クシテ色頗美麗ナリ  
蜂蟬屬 此屬ハ其種數多アリ初メ皆卵ヨリ生  
シテ繭ノ如キ形體ニ變ジ終ニ蝴蝶ニ似タル美



麗ノ羽虫ニ變ズ其翼ハ透明ニシテ塵埃ヲ蒙ル  
トナシ又此屬ハ一時乃至二時間モ日ニ向テ遊  
戯シ而後死スト云フ

スライオン  
砂按子

第千七十六圖



砂按子及ヒ其洞穴  
ト云フ

此小蟲ハ暖國ニ棲息シ充分成長セル  
時ハ身長一寸五分許其生活ヲ營  
ムノ法方甚奇ナリ廣サ三寸深リ  
二寸ニシテ漸ク下底ニ達ス可キ  
穴ヲ穿掘ス而シテ餌食ト爲スベ  
キ處ノ蟻此穴邊ニ來ル時穴中ニ  
滑リ落ルヲ待チテ直ニ之ヲ食フ

第千七十七圖



アントライオン  
ヲ生スル羽虫  
即蚊蟻蛉

蟻若シ穴底ニ落テヌシテ中途ニ止  
ルトキハ之ニ向テ砂ヲ投シ蟻ノ疲  
弊セシメ穴底ニ陷シ速ニ之ヲ食フ  
茲ニ記スル圖ハアントライオンヲ  
生ズル羽虫ノ形態ナリ

赤色或ハ黑色或ハ翼ヲ具シ或ハ翼ヲ具セサル  
者アリ而シテ皆同大ナル他ノ小蟲類ニ比スレ  
ハ甚剛毅ニシテ絶ズ勞カシ屢自己ノ身重ヨリ  
十倍ノ重荷ヲ運送ス蟻類ハ專食肉小蟲ニシテ



動物ノ柔軟ナル部分ヲ餌食スルヲ甚速ニシテ

第一千七十八圖



亞非利加ニ産スル蟻塚

忽チ之ヲ食ヒ盡シ數族相共ニ  
棲息スル者ナリ

蟻類ハ冬間身體自由ナラサル  
者ナレトモ四五五月ニ至レハ無  
數羣ヲナシテ蟻蛭アリヅカヨリ顯出ス  
最初ニハ翼ヲ具セサル者ノ外  
更ニ他種ヲ見ルコトナシ此無翼  
者ハ則勞力ヲ爲ス蟻ニシテ蟻  
類中ノ最小ナル者ナリ然レド

モ時トシテハ牝牡共ニ無翼ニシテ勞力セサル  
者アリ又蟻兵ト名クル一種ハ蟻塚ヲ守護スル  
ノニシテ大蟻公ト稱スル處ノ一

第一千七十九圖



蟻ヲ奉戴セリ此大蟻公ハ一時間ニ  
二萬四千ノ卵子ヲ産スルコト往々之  
アリ  
他ノ蟻類カラ共ニシテ大蟻公ノ産ミ  
タル卵子ヲ能ク注意ス此卵ハ最初  
至小ニシテ見エ難キホトナレドモ  
漸々變シテ白色小蛆チヤキクノ如ク遂ニ蟻



卵ト想定ス可キニ至ル而シテ蛆ノ如キモノハ  
暫時間蛹様ノモノヲ以テ圍包セラレ後此包皮  
ヲ破リテ外ニ出テ、蟻トナルナリ

蟻ハ非常ニ其兒子ヲ愛シ甚注意シテ之ヲ養育  
ス若シ世人ノ蟻埤ヲ擾亂スルアレハ其中ニ住  
スル蟻類大ニ苦心<sup>レ</sup>シテ盡ク集合セル白色物ノ  
周圍ニ集リ各之ヲ口ニ銜<sup>フ</sup>シテ安全ノ地ニ運送  
ス此白色物ハ即蟻ノ卵子ナリ又蟻ノ忍耐ト恒  
心ト勇氣トハ實ニ驚嘆スヘキモノニシテ常ニ  
之ヲ喻ヘテ勉強ノ諺トナスニ至レ

蟻ハ世人ニ最緊要ノ教訓トナルベキヲ聖經  
中ニ述ベタリソロモン氏曰懶惰ナル者ハ蟻ノ  
行為ヲ見テ之ヲ熟思シ以テ聰明ハ人トナル可  
シト又有名ナル武將<sup>ト</sup>サム<sup>ル</sup>ル氏ハ一蟻ノ爲ニ  
大ニ其心ヲ感動シタルアリ同氏嘗テ敵軍ヲ  
逃レ敗壞シタル家屋内ニ匿レテ數時間獨坐シ  
殆ト失望シタル時偶然高壁上ヲ見シニ一蟻己  
ノ體ヨリモ更ニ大ナル重荷ヲ運送セルアリ乃  
チ意ヲ留メテ其舉動ヲ熟視セシニ其重荷ヲ地  
上ニ落スコト六十九回遂ニ七十回ニシテ全ク



之ヲ高壁ノ上ニ揚ケタリチムル氏喟然トシ  
テ嘆シテ曰ク我此小蟻ノ大勉強ヲ見テ以大  
ニ吾ガ勇氣ヲ鼓舞シタリ我必誓テ蟻ノ教訓ヲ  
忘ルヘカラズト

某蟻ハ某小蟲類ヲ畜養シ喻ヘハ世人ノ牝牛ヲ  
飼ヒテ乳汁ヲ取ルト同一ナル方法ヲ以テ此小  
蟲ヨリ甘キ液汁ヲ榨取スルノミナラズ常ニ此  
小蟲ヲ所有シテ其家屋トナスモノアリ若シ他  
ノ蟻類之ヲ畜養スル樹木ノ枝或ハ植物ノ莖ニ  
攀上スルハ公然タル所有主ノ權ヲ以テ其蟻

ヲ逐斥シ乳汁小蟲ノ周圍ヲ忙シク奔走ス又時  
トシテハ小蟲ヲ畜養スル處所ノ周圍ニ小壻ヲ  
構スルト恰モ獸園ノ如ク安全ニ之ヲ保護スト  
云フ又某蟻ハ前種ヨリモ簡易ニ乳汁小蟲類ヲ  
畜養スルトアリ此小蟲ノ大羣ヲ驅テ自己ノ巢  
中ニ輸送シ巢ノ周邊ニアル草莖類ヲ以テ之ヲ  
養ヒ其卵子ヲ養護注意スルト恰モ自己ノ卵子  
ニ異ナラズ若シ其巢ヲ侵襲スルモノアレハ則  
チ卵子ヲ安全ナル所ニ運送ス又通常ハ早ク此  
卵ヲ孵ヘサント欲シ侵襲セラレシ時ノ如クニ



運送シテ日光ニ曝露ス斯ク爲スハ全ク滋養  
食物ノ適當トナル供給ヲ得ンカ爲ナリ  
蟻類ハ勇氣アル爲ニ著名ニレテ其體ハ甚小ナ  
レドモ絶エテ危險ヲ冒スヲ恐レズ敵ニ向ヒ  
直ニ之ヲ咬ミテ毒ヲ其傷中ニ灌注ス又咬ミ付  
キテ放ツ間モナク自己ノ體ヲ數片ニ劈カルベ  
キ強敵ヲ恐レステ之ニ向フヲ往々之レアリ  
其甚レキハ人ヲモ恐レサルニ至ルモノナリ  
蟻類ハ武備ヲ具ヘ勇氣アル小蟲ニレテ常ニ其  
近隣ノ者ト和親スルヲナシ一尺四方ノ地ハ乃

チ蟻ノ一子國ニレテ家畜小蟲(即乳汁)如キ汁  
ヲ取ル小蟲ノ數群ハ恰モ人家ノ畜獸ノ如ク  
甚貴重ス而シテ蠅及甲蟲ノ體ハ最價アル所有  
物タリ斯ク蟻ハ人間ノ如クニ國家ヲ有スルモ  
ノナレバ其戰鬥及爭亂ヲ爲スヲ更ニ怪ムニ足  
サルナリ蓋蟻ノ兩國間ニ戰爭起ルハ數萬ノ  
蟻兵兩城府ヨリ出陣シ里程各相半シタル所ニ  
於テ會戦レ兩兵龍虎ノ勇ヲ振テ決闘ス此戰場  
ハ二尺乃至三尺四方ノ地ニ過キザレドモ尚人  
世ノ戰場ノ如ク數千ノ蟻兵各カラ極メテ相闘



本草綱目卷之六

文部省

互ニ毒氣ヲ吹キテ甚シキ臭氣ヲ空中ニ放チ  
敵ヲ殺害スルヲ恰モ火藥ヲ用井ルニ異ナラス  
既ニシテ數千ノ死者傷者地上ニ散布レ或ハ四  
虜トナノテ敵陣ニ趣クモノアリ或ハ救援ヲナ  
ス爲ニ驅走スル者アリト云フ

蟻類ハ一般ニ同種類ナレバ其何ヲ以テ彼我ヲ  
辨知スルカ未<sup>タ</sup>之ヲ説明スルコト能ハス蓋其形  
體彩色、臭氣等皆同一ニテ蟻ノ兵卒ハ人ノ兵  
卒ノ如ク各色ノ同裝ヲ以テ區別ス可ラザレト  
モ同隊相闘<sup>ル</sup>一甚罕ナリ偶相争フ<sup>ト</sup>アルモ忽

テ其誤ヲ悟リテ直ニ親友トナル又夜ニ至レハ  
戦争ヲ止メ兩軍交綏レテ各其城府ニ歸リ明朝  
新ニ戰陣ヲ構到底雨天ノ爲ニ兩兵相分レテ全  
ク戰鬪ヲ忘却セサル間ハ此争亂休止スルノ期  
ナシト云フ

蟻類ハ上文ニ記載セシ如ク兩軍相對レテ戦争  
スルノミナラス或ハ突然近隣ノ都府ヲ襲撃シ  
テ之ヲ掠奪スル<sup>ト</sup>アリ總<sup>ニ</sup>テ蟻類ノ企望ハ極  
メテ大ナルモノニレテ若レ世人ノ之ヲ目撃ス  
ルカ或ハ之ヲ演說スル<sup>ト</sup>ナキヤハ決レテ之ヲ

博物學卷九

三八 文部省



確信スルヲ能ハサル者ナリ既ニ前條ニ述シ如ク勇氣アリテ争鬪ヲ好ム蟻類ハ他ノ種類ノ如ク勞カヲ爲サズ其故ハ黑人蟻ト名クル黑色蟻ノ巢ヲ襲ヒ其兒子ヲ捕ヘ來リテ奴隸トナレ之ヲ使役スルヲ以ナリ

此捕獲シタル兒子成長スルトキハ之ニ命シテ家屋ノ營繕食物ノ集收及主人ノ兒子ニ伴ヒ或ハ主人ニ食物ヲ供レ或ハ主人ヲ負テ巢ノ周圍ヲ巡廻スル等ノ勞カ工作ヲナサシムル者アリ淡黑色蟻即主人トナル蟻ハ年々其奴隸蟻ノ數

ヲ増加ス黑人蟻ノ蟻塚中ニ作エスベキ蟻ノ多ク生スル時ハ淡黑色蟻ヨリ其近隣ニ向テ間者ヲ派出シテ行軍ノ準備ヲナス此間者歸リ來レハ鬚ヲ以テ互ニ相觸レテ信號ヲ爲レ直ニ黑人蟻ノ府城ヲ襲フカ爲ニ出陣ス其行軍ノ法ハ甚奇異ニシテ第一ニ八個乃至十個ノ蟻進ミテ先導ヲナシ一隊ヲ前ノ屯營ニ送り又退テ次隊ノ先導ヲ爲ス斯クスルヲ數回ニシテ全軍悉ク屯營ニ達セザル間ハ絶ズ進退周旋スト云フ  
黑人蟻ノ府城ヲ守衛スル者敵兵淡黒蟻ノ襲ヒ



來ルヲ見レハ即時憤激突進シテ大ニ之ト鬪フ  
數多ノ援兵之ヲ見テ防戦スレドモ敵鋒當ル可  
ラス遂ニ敗走シテ蟻垤蟻垤ハ數階ヨリ成ルノ最下層ニ  
潛匿ス此ニ於テ敵蟻ノ大軍進テ城門内ニ入り  
或ハ城壁ニ穴ヲ穿チ内城ニ突入シ直チニ黒人  
蟻ノ小平兵ヲ擒獲シ其父母ノ憂慮ヲ顧ミズ之  
ヲ率テ城外ニ出テ他ノ掠奪品ト併テ之ヲ輸送  
シ本國ニ凱旋ス此淡黑蟻ノ凱旋スルトキ其奴  
隸蟻巢外ニ出テ之ヲ迎フル景况ハ實ニ珍奇ト  
謂フ可キナリ此奴隸蟻ハ先ツ囚虜少年蟻ヲ巢

内ニ導キ而後兵士ニ食物ヲ供シテ厚ク之ヲ慰  
勞シ大ニ其凱陣ヲ悦ベル者ノ如シ而シテ淡黑  
蟻モ亦善ク其忠義ナル奴隸蟻ヲ慈愛撫育シ若  
シ他蟻ノ我軍ヲ襲フコトアレバ其第一ノ注意  
ハ奴隸蟻ヲ安全ノ地ニ護送スルコトナリ總テ奴  
隸蟻ハ全ク少年ノ際ニ捕獲セラレシ者タルニ  
因リ其他郷ニ在ルコトヲ知ラズシテ故郷ヲ思フ  
ノ情ナシ又奴隸蟻ハ縱令其本國ニ居ルトモ全  
ク當時ト同シ勞カヲ爲スベキ者ナルガ故ニ他  
邦ニ在リテ奴隸タルモ更ニ不幸ナル者ニ非ス



亞非利加及印度ニハ白蟻ト名クル一種ノ蟻

白蟻塚ノ内部



白蟻塚

リ此小蟲ハ其得テ食フベ  
キ各品中ニテ最嗜好セル  
モノヲ木材トス一夜ノ間  
ニ室内木製ノ物品ヲ盡ク  
壞損スルヲ往々之アリ其  
住家ハ甚驚嘆スベキモノ  
ニテ粘土ヲ以テ造構セリ  
其形狀ハ尖形糖ニ似テ往  
々高サニ丈ニ至ル者アリ

第十八圖

世人其上ヲ踏ムル更ニ崩壞スルノ虞ナシト云  
フ又南亞米利加ニ一種ノ蟻アリ此蟻ハ綠葉ヲ  
以テ巢窩ヲ造構ス其數葉ヲ收拾スル間ニハ各  
自其體ヲ全ク蔽藏スベキ大葉ノ一片ヲ携來ル  
ニ因リ之ヲ日傘蟻ト名ク  
此他蟻ノ種類甚多ク或ハ至小ニシテ肉眼ニ見  
エ難キモノ或ハ極メテ大ナルモノ等アリ  
黃蜂屬 此屬ハ性猛烈ナル小蟲ニシテ有毒ノ  
刺劍ヲ具有セリ其體ノ大ニシテ環テルヲト速  
ニ飛翔スルヲ以テ蜜蜂ト區別ス黃蜂ハ通



第十八十一圖



黃蜂ノ巢

常地上ニ巢ヲ造構シ社ヲ結ヒテ  
 群集ス往々一社ニ一萬乃至一萬  
 二千餘群居ハルコトアリ此蜂モ  
 亦蜜蜂ノ如ク其種類ヲ分テ三  
 等トス即工蜂ホルケル蜜公ドロンク蜂王是ナリ每  
 一蜂王ニ必數百ノ蜂臣從侍セリ其住家ノ造構  
 ハ巧妙ニシテ數階アレドモ種類ニ因リテ其造  
 法及習作等モ亦異ナリ黃蜂ハ蜜蜂ノ大賊ニシ  
 テ其蜜ヲ奪ヒテ食トシ又果實植物ノ肉及液汁  
 等ヲ餌食スル者ナリ

大黃蜂ホル子ツト

此蜂ハ兩大陸ニ産スル黃蜂ノ大種ニ

第十八十二圖



工蜂 蜂王 蜜公

シテ性勇猛害心アリ好ミテ肉ヲ  
 食ヒ往々二三頭相集テ小鳥ヲ侵  
 襲シ之ヲ殺シテ其肉ヲ食ス其ニ  
 刺サルレハ劇甚ナル疼痛ヲ起ス  
 ト云フ  
 蜂 此小蟲ハ其種數多アリテ最  
 緊要ナルモノハ蜜蜂ナリ此蜂ハ  
 小ニシテ無用物ノ如ク見ユレド  
 モ世界中ニテ最奇異ナル動物ノ



一タリ蜜蜂ハ多ク野生ニシテ樹木ノ空窩中ニ  
巢ヲ造構スル者多シ亞米利加及他ノ諸國ニテ  
ハ蜜ヲ得ンガ爲ニ野生蜜蜂ノ巢ヲ搜索スルヲ  
以テ職業トナス者數多アリ

蜂巢ノ發見スベキ通常ノ法方ハ蜂ヲ誘引スル

爲ニ匾平ナル板或ハ瓦ノ上ニ多少ノ蜂麵包ビイブニ

之ヲ以テ其兒子ヲ養フ名ケテ蜂麵包ト云ノ

ヲ置キ白色ノ顔料グヲ以テ其周圍ニ環ヲ畫クナ

リ斯クナレ置クトキハ蜂飛ヒ來テ常ニ板又ハ

瓦ノ縁ニ止リ其餌ニ達スルニハ必フ顔料ノ上

ヲ通行セザルヲ得ズ故ニ其體ヲ白色ニ裝ヒテ

飛去スベシ此白蜂ヲ認メテ其巢ヲ搜索スルノ

便トナシ懷中羅織盤ヲ以テ其行路ヲ定メ置キ

而テ又遠隔セル他所ニ到リテ前法ヲ行ヒ甲所

ノ方向線ト乙所ノ方向線トヲ比較シテ以テ容

易ニ巢ノ位置ヲ發見スベシ其故ハ此兩線ヲ長

ク延スルハ則チ二線ノ相合スル所ニ必ス蜂巢

アレハナリ

亞非利加ニテ蜜蜂ヲ捕フル者ハ蜜蜂導者オニイグイドト名クル小鳥ノ補助ヲ仰フト云フ又同國ニテ



第千八十三圖



蜜峰導者  
ホニイライ

ホニイライテル喜望峰産麴ハ其  
追ハント欲スル蜂ヲ明白ニ認  
メ得ンガ爲ニ日没頃ニハ其一  
足ヲ眼上ニ翳カサスシ飛翔スル蜜峰  
ヲ見レハ其巢ニ歸ルヲ知テ之  
ヲ追行スト云フ

家畜蜜峰ハ世人ヲシテ巴ガ奇異ナル習作アル  
コヲ認知セシム凡蜂ニ蜜公、蜂王、工蜂等ハ三種  
アルトハ此蜂ハ巢ニ於テ發見セリ蜜公ハ蜂仔  
父ニシテ性急情他ノ二種ヨリ甚大ニシテ飛

翔スルトキハ高調ノ聲ヲ發スルセリ此蜂王  
ハ蜂仔ノ母ニシテ蜂巢ヲ管轄シ之ニ隨從スル  
臣下甚多シト云フ此蜂王ハ蜂仔ノ母ニシテ  
此蜂王死レバ同社ノ衆蜂狼狽擾亂ス其第一ニ  
此大事件ヲ發見セシ蜂ハ狂亂シテ巢ノ周圍ヲ  
巡翔シハシラシク蟲鬚ト名クル小鬚ヲ以テ相逢ス處ノ同  
社各蜂ニ觸レテ大事ヲ告ケ闔社ノ蜂皆此事件  
ヲ知リ全巢中擾亂スルニ至ルマテハ休止セス  
ト云フ巢中ノ混雜ハ四時乃至五時間許モ續ク  
モノナリ斯テ後衆蜂ハ此不幸ヲ補フベキ處分



ヲナシテ之ニ着手セリ顧フニ世界中ニテ此不  
 幸ヲ補フ處分ノ如キ奇事ハナカル可シ衆蜂ハ  
 異形ナル數多ノ大蜂房ヲ造リ此各蜂房ノ内ニ  
 工蜂ノ一兒仔ヲ入レテ之ニ特別ノ餌食ノ供セ  
 リ此各工蜂ノ兒仔ハ一二日間ニシテ絶大者ナ  
 ナリ遂ニ蜂王ト成ル而シテ此各蜂王ハ皆一巢  
 ノ君主ナリ  
 衆蜂若シ其蜂王ヲ失ヒタル時相續スバキ蜂仔  
 ナケレバ作工ヲ廢止シ數日ニシテ皆死ス然レ  
 ドモ若シ此混雜中ニ蜂王歸リ來レバ直ニ静謐

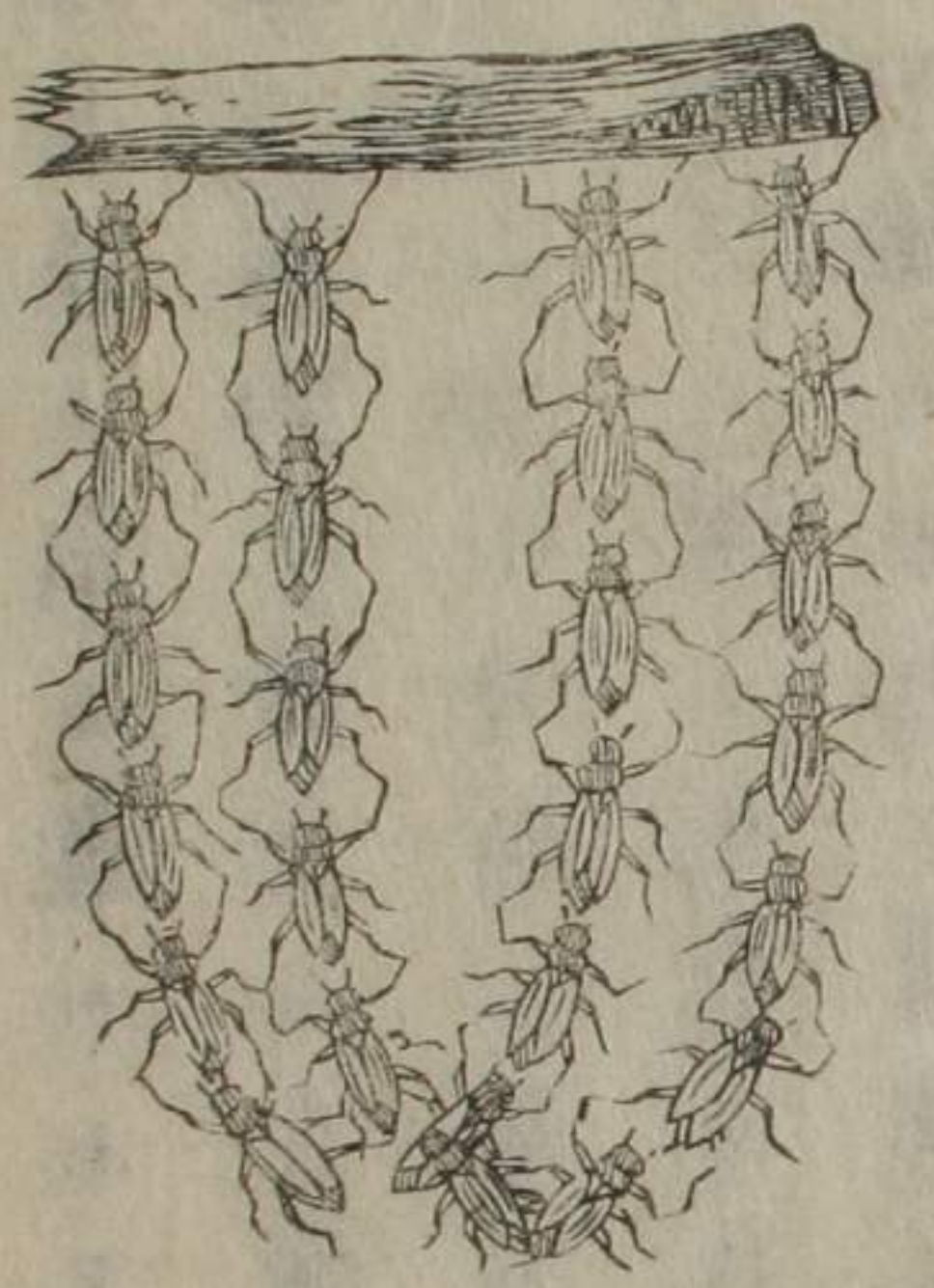
ニ歸スル者ナリ其故ハ衆蜂皆能ク蜂王ヲ記憶  
 シテ衆蜂ト之ヲ區別スルヲ以テナリ又前蜂王ヲ  
 失ヒタル後至急ニ新蜂王立片ハ之ニ勤仕シテ  
 食物ヲ供スル者ナシ故ニ或ハ飢餓ニ或ハ衆蜂  
 ノ爲ニ厭倒セラレテ以テ死ス然レドモ二十四  
 時間ヲ經過シテ蜂王ヲ失ヒタル哀歎消盡スル  
 トキハ善ク新蜂王ヲ容レテ其統轄ヲ受ケ衆蜂  
 之カ周圍ニ群集シテ輪番ニ鬚ヲ以テ新王ニ觸  
 レテ蜜ヲ供シ順序ヲ立テ輪坐ス新王運動スル  
 トキハ輒テ守兵トナリテ之ニ隨行スト云フ



蜂王ノ産スル兒子ハ甚數多ニシテ一蜂王ノ兒  
 子ノミニテ一巢内ニ充滿セリ蜂王ハ一季ニ六  
 萬乃至七萬ノ卵ヲ産ム一往々之アリ故ニ一巢  
 ニハ決シテ二蜂王アルコトナシ此卵子ノ中ニテ  
 或ハ蜂王ト成リ或ハ蜜公ト成リ餘ハ皆工蜂ト  
 ナルナリ又群蜂巢外ニ出ルトキハ蜂王之ヲ嚮  
 導セリ而シテ蜜公ハ蜂蜜ヲ集收セス又蜂房ヲ  
 造ルトキ更ニ其助手ヲナスコトナシ故ニ怠惰ニ  
 シテ空ク光陰ヲ送ル人ヲ呼シテ蜜公ト稱スル  
 一往々之アリ蓋蜜公ハ未タ冬天ニ至ラザル前

ニ巢外ニ逐出セラレバシ其故ハ勉強ナルニ蜂  
 ノ集收セシ蜜ヲ食ハサラシメニカ爲ナリ  
 蜜蜂、一群新巢ニ入レバ直ニ蜜ヲ貯藏ニシ其

第一千八十四圖



衆蜂蠟ヲ造ル

兒子ヲ養育スベキ蜜  
 窩ヲ要スルナリ此蜜  
 窩ハ世人ノ想像スル  
 如ク花ヨリ得ルニ非  
 スシテ蜂體ヨリ出ル  
 蠟ヲ以テ造ル者ナリ  
 若シ此蠟ナキハ之







テ蛆トナレバ衆蜂止ヲ得ス其巢ヲ棄ル<sub>テ</sub>往々  
之アリ又獨體蛾ノ至大ナルモノハ往々蜂巢ニ  
進入シ衆蜂ヲシテ動ク<sub>テ</sub>能ハサラシムル嚮音  
ヲ發シ而後蜂蜜ヲ掠奪スト云フ

地蜂 ホシアルヒ 此蜂ハ相貌ノ拙陋ナルカ爲ニ世人ノ認

第千八十五圖



地蜂

知セル者ナリ枯艸ノ野中ニ就キテ  
苔ヲ以テ巢窩ヲ造構ス其物料ヲ集  
收スルノ法甚奇ナリ一蜂先<sub>ッ</sub>其巢ヲ  
造ル可キ地ヲ後ニシテ苔上ニ坐シ  
其齒ト前脚トヲ以テ苔ノ小片ヲ剝

取り之ヲ中脚ニ移レ再ビ之ヲ後脚ニ移レカヲ  
極メテ後脚ヲ伸シ之ヲ其次ニ坐スル處ノ蜂ニ  
遞送ス次蜂モ亦同法ヲ以テ之ヲ其次ニ傳フ斯  
ノ如クスル<sub>テ</sub>數回ニシテ遂ニ苔ノ小片ヲ營巢  
ノ地ニ運送ス其巢ハ粗ナル蠟ヲ以テ裏面ヲ塗  
抹シ拙劣ナル僅少ノ蜜窩ヲ安置ス  
地蜂ハ酪蟲類ノ小蟲ニ惱マサル者ニシテ無  
數ノ小蟲其體ニ居ル<sub>テ</sub>往々之アリ然レ<sub>レ</sub>地蜂  
ハ又此酪蟲ヲ掃除スヘキ愉快ノ方略ヲ有セリ  
其酪蟲ノ爲ニ惱ミタルモノハ蟻垤ニ行キ搔抓

博物學 卷九 三十八



跳蹴シテ蟻ノ出テ來ルヲ待ツ既ニシテ衆蟻出  
 テ來ノテ此酪蟲ヲ盡ク奪ヒ取り然ル後之ヲ巢  
 外ニ追逐ス地蜂ハ其體ノ仇敵ヲ拂ヒ盡サシメ  
 テ即自得シテ以テ飛去ルト云フ  
 蜂屬中ニハ自勞カシテ其巢ヲ造リ獨居ヲナス

第千八十六圖



泥工蜂

處ノ蜂種數多アリ此種中ニテ最  
 感スヘキモノハ泥工蜂ナリ此蜂  
 ハ粘土ノ小片ヲ以テ古壁ノ穴中  
 ニ巢窩ヲ造構シ口徑殆ド指環ノ  
 如キ四個乃至五個ノ蜂房ヲ造リ

卵子ヲ其各蜂房内ニ産ムト云フ木匠蜂ハ堅牢  
 ナル二個ノ齒ヲ以テ古キ杖柱等ニ深サ一尺許  
 小兒ノ指ヨリ太キ穴ヲ穿テ巢ヲ其内ニ造構レ  
 テ卵ヲ産ミ鋸屑ト口ヨリ出ス護謨質ノ流動物  
 以テ各卵ヲ分別シ又巢内ニ突入スル者ヲ  
 防ク爲ニ其入口ヲ閉塞スト云フ室具匠蜂類ハ  
 樹木ノ花葉ヲ以テ其巢裏ヲ覆フニ因リ之ヲ室  
 具匠蜂ト名ツク又一種截葉蜂ト稱スル者ハ地  
 中ニ穴ヲ穿テ綠色ノ葉ヲ以テ其蜂房ノ裏面ヲ  
 覆フ他ノ一蜂ハ梨ノ形ニ古木ヲ穿テ巢ヲ造



リ光澤アル深紅色ノ葉ヲ擇ヒテ之ヲ其周圍ニ懸ケ卵ヲ産ミテ後土ヲ以テ全ク其巢ヲ被覆ス

蠟

此種ノ動物ハ鱗アル翼ヲ具フル鱗翼部ノ

兒仔トシテ世人ノ認知セルモノニシテ蝶類及

第千八十七圖



蠟、蛹及外套

蛾類等ヲ包有セリ蠟ノ種ニ至テハ其數夥多ニシテ大小形體彩色等各異ナレドモ生活ノ方法ハ皆一ニシテ其形ヲ變スルヲモ亦相同シ蠟ノ數種ハ種々ノ栖處ヲ營ム者ニシテ其中ニ

ハ頗奇ナルモノアリ且ツ大概獨居スル或ハ大群相伴ヒテ棲息スルモノアリ總ヘテ此類ノ蠟タル間ハ暫時ニシテ忽驚クベキ變化ヲナシ或ハ自蛹ヲ造リ木葉ヲ以テ之ヲ覆フモノアリ或ハ地下ニ隱ル、モノアリ或ハ穴又ハ屋隅ニ潛入シテ體ヲ空ニ懸ルモノアリ蠟ハ其形ヲ變化スベキ期ニ近ツケハ大勞力ヲ以テ其皮ヲ破リ蛹ト成リテ出ツ斯テ驚クベキ作爲ヲ以テ全ク其舊皮ヲ脱シ繭ヨリ跂出シテ遂ニ其袋ヲ破リ光澤アル美麗ノ蝴蝶ト成テ輕



浮ナル翼ヲ鼓シ花ヨリ花ニ移遊ス斯ノ如キ變  
化ヲ經サル間ハ未タ全キ運動ヲ爲サルモノ

第千八十八圖



蝴蝶

ナリ  
此美麗ナル小蟲ハ其變種  
無數ニシテ大小種々アリ世界ノ  
各所ニ棲處スレトモ氣候温暖ノ  
地方ニ産スル者ハ最大最美ナリ  
其翼四個アリテ光澤美麗ノ粉末  
ヲ被リ脚ハ六個アレドモ其用ニ  
供スルモノハ只四個ノミ蝴蝶ノ

生産スル者既ニ蠶ノ条ニ詳説セリ其大ニ

蛾モト此小蟲ハ其種數多アレドモ習作ハ大抵皆  
相類シテ蝴蝶ニ彷彿タレトモ其餌食ヲ索ムル

第千八十九圖



蠶蛾

コハ夜間ニ在リ此蟲ハ他ノ小  
蟲ノ如ク卵ヨリ孵化シテ其形  
體最初ハ小ナル蠶カラダニ似タリ斯  
ノ如キ形狀ノ間ハ甚害ヲナレ  
テ毛布絹毛皮柔皮等ヲ餌食ス  
此蠶形ヨリ蛹ノ如キ形狀ニ變  
シ遂ニ全ク成長シテ蛾ト成ル



又時トシテハ之ヲ夜間蝴蝶ト名ツク此蛾ハ植  
物ノ甘キ液汁ヲ食ヒ短命ニシテ一夏ヨリ長ク  
ハ生存セサルモノナリ蜂ノ糸ニ記載セルハハハハ蠶  
ハ即蛾ノ大ナル種ナリ

此小蟲ハ元來支那ノ北部ヨリ齋モリス・モノ  
ニテ之ヲ養育スルヲ漸々歐羅巴及亞米利加  
ニ廣布セリ此小蟲ハ大凡六週間黒糸或ハ白糸  
ノ葉ヲ餌食ニ此間ニ四回其皮ヲ變ニ而後桑葉  
ヲ食フコトヲ止メ適宜ノ地位ニ就キテ細絲ヲ出  
シ白色又黄色ナル卵圓形ノ繭ヲ造ル其大カ殆

第一千九十圖



蠶繭、蠶卵、蠶蛾

相合シタル纖維ヲ以テ集成セシモノニテ其長

四二 支那

ト鴿卵ノ如シ斯テ蛹ニ變シ

大凡十四日間ニシテ又蠶蛾

ト成リ卵ヲ産ミテ速ニ死ス

繭ハ大概蠶蛾ノ生セサル前

ニ方テ蠶蛹ヲ殺ス爲ニ之ヲ

強キ熱度ニ當ル者トス其故

ハ蠶蛾ヨリ着色ノ流動物ヲ

出シ絹ノ品位ヲ害スルヲ以

テナリ繭コリ出ル絲ハ二條



サ九十丈乃至百二十丈アリ又絹帛ノ製造ニ至  
 テ大古ヨリ世人認知セル所ノモノタリ  
 モス毎ト 此煩悶厭フ可キ蚊ハ他ノ動物ノ血  
 及花蜜ヲ餌食ス其鼻ハ圓管ニテ尖端ニ二個  
 ノ唇ヲ有セリ吸管ハ五條ノ絲ヨリ修成セルモ  
 ニテ此絲ヨリ刺劍ヲ出ス又雌蚊ハ卵ヲ水面  
 ニ産ミテ之ヲ推壘シ此卵孵化シテ子ヲ成リ  
 池溝ノ潦水ヲ游泳ス斯テ子ヨリ蛹ト名クル  
 動物ニ變シテ終ニ蚊ト成ハ熱帶諸國ニテハ蚊  
 ノ大ナル種類夥多アリ其咬ムト頗有毒ニシテ

大ニ諸動物ヲ苦惱セルモノナリ  
 蚊 此小蟲ハ體細ク脚長クシテ二個ノ翼ヲ具  
 シ他ノ動物ノ肉ヲ破リテ其血ヲ吸フバキ一管  
 ヲ育ス熱帶地方ノ潦水中ニ夥多産シテ或ハ身  
 長六寸許ノ大ナルモノアリ或ハ肉眼ヲ以テ見  
 ル可カラサル小サキモノアリ蚊ハ初メ卵ヨリ  
 孵化シ後ニ蛹ノ如キ形狀ニ變シ終ニ翼ヲ生ス  
 ル者ナリ又蚊ニヨク肖タレト吸血管ヲ具セス  
 シテ血ヲ吸ハサル一種ノ蟲アリ之ヲ鶴蠅カノウバ義ト  
 名ク而シテ「イシ」モ亦蚊ニ酷肖シタル小蟲ナ



リ苦蚊カリニベルハ合衆國ノ南部ニ産スル大蚊ニシテ頗有カ毒ノモノナリ

蠅 此小蟲ハ世人ノ能ク認知セル者ニシテ數屬數種アリ其體ハ頭ト胸ト腹トノ三部ニ分レテ透明ノ翼ヲ有セリ蠅ハ皆兩翼部ノ目中ニ屬スル蚊、蝟及他ノ小蟲類ノ如ク兩翼ヲ有シ卵ヨリ生レテ其孵化スルトキハ蚯蚓ノ如キ形狀ヲナレ又蛹ノ如キ状態ニ變レ終ニ具翼小蟲ト成ル或ハ數時間生存スルモノアリ或ハ數日間或ハ三月ノ間或ハ又六八九月ノ間生活スル者ア

リ總テ蠅ノ産スル蛆ハ食物腐肉等ヲ以テ食トス又之ヲ蠅蛆ト名ク其體ハ柔軟ニシテ足ヲ具セズ蓋蛆ノ蠅ニ變スルハ大概一二日ノ間ニ在ルナリ

馬蜂ウシバハ 此小蟲ハ世人ノ能ク認知セル所ニシテ牛馬ノ脊上ニ止リ其血ヲ吸フ者ナリ蜚蠊ゲドク一名クハ馬蜂ノ一種ハ家畜獸ノ皮ニ穴ヲ穿チテ其中ニ卵ヲ産ス此卵孵化レテ蛆トナルトキハ其兩親ノ穿チシ傷口ヲ餌食シ牛、羊、馴鹿、馬等ヲ惱マシ往々之ヲ殺害スルニ至ルナリ



無脊動物

第二綱 多肢動物 一名射形部

此綱ハ動物界中ノ最下等ナル者ヲ包有セリ此  
 綱ニ屬スル者ハ知覺ニ微ニシテ五感全ク備ハ  
 ラズ太ク植物ニ似タリ其種中ニハ實ニ動物ト  
 植物トノ分界ヲ定メ難キモノアリ  
 此綱ノ動物ヲ射形部ト名クル所以ハ其形體恰  
 モ體ノ中心ヨリ光線様ノ枝極ヲ發生スレハナ  
 リ海盤車ノ如キハ是其一例ナリ又此動物ノ神  
 經系ハ甚詳明ナラサレドモ善ク之ヲ穿鑿スル

トキハ中心ヨリ發出セル枝極ニ布置セルモノ  
 ノ如シ某種ハ看得スベキ口ヲ具シ他種ハ口ヲ  
 有セスシテ餌食ヲ穴孔ヨリ吸入ス綱中ノ諸動  
 物ハ其形體恰モ枝極ノ如ク植物ニ酷肖セルカ  
 故ニ之ヲ總稱シテ植蟲ト名ク  
 クヴール氏多肢動物ヲ分ケテ五目ト爲ス即左  
 ノ如シ

- 第一目 海盤車類 アシテリマス
- 第二目 體內蟲類 イソトグサ
- 第三目 水母類 アカレハ

博物學 卷九 三 海盤車類 體內蟲類 水母類



第四目

植蟲類

第五目

顯微鏡蟲類

第一目

海盤車類

海盤車<sup>ヒトデ</sup>即海尾屬<sup>ヒトデ</sup> 此奇ナル屬ハ各所ノ海岸ニ  
 居住シテ其色同一ナラズ時トレテハ水面ニ浮  
 漂セル凝液<sup>凝液</sup>等<sup>等</sup>一塊ノ如ク見ユルモノ  
 アレトモ通常ハ輪廓ナキ車輻ノ如キ形體ヲ爲  
 シテ巖石ニ固着ス其最尋常ノ種ハ五個ノ枝ヲ  
 有スルニ因リ通例之ヲ五指起重器<sup>起重器</sup>ト名ク下  
 其中心ニアリテ五枝ノ下部ニハ水蟲<sup>水蟲</sup>口鬚<sup>口鬚</sup>ト名

第一千九十一圖



五指起重器

クル鬚ヲ多ク生セリ此鬚ハ一  
 個ニレテ四千條ヲ有スルモノ  
 往々之アリ又海盤車ハ夜間燐  
 光ヲ放ツモノニシテ常ニ蟲類  
 及介類ヲ餌食ス  
 海膽屬<sup>海膽屬</sup> 此屬ハ海中ニ産スル  
 動物ニシテ隨意ニ動クベキ刺ト石灰質ノ殼ト  
 以テ體ヲ被覆セリ其殼ハ數片ノ稜角形ヲ密  
 布セシモノニシテ其足ヲ出ス爲メニ數百ノ孔  
 穴ヲ開ケリ又此屬ハ足ト刺トヲ以テ徐々ニ運



動シ常ニ足ヲ以テ小介類ヲ捕ヘ之ヲ餌食ス

第二目 體內蟲類

此目ノ動物ハ他ノ動物體內ニ棲息スル爲ニ著明ニシテ屢己ノ住處マル動物ヲ害スト云フ此動物ハ何故ニ他物ノ體內ニ占居マルカハ之ヲ説明スルヲ甚難シ又此動物ハ更ニ運動及呼吸ヲナサザルモノ、如シ

幾内亞蟲 此動物ハ熱帶地方ニ尋常ニシテ其形體ハ蚯蚓ノ如ク大サハ鵠ノ羽莖ニ均レ人體ノ皮下ニ穿入シ數年間棲息シテ數尺ハ長ナリ

成長シ人ヲシテ烈シキ疼痛及拘攣ヲ起サシムル者ナリ

絲蟲屬 此蟲屬ハ皆人體中ニ生スル者ニシテ

其種數多アリ形體ハ恰モ單一ナル鏈ノ連接セラルガ如ク其連接スル處ニ口及他ノ部分ヲ具有セリ此蟲ハ往々長サニ丈ニ達シ罕ニハ十丈ニ及フ者アリテ人間ニ甚シキ害ヲ爲シ屢ニ功能灼然タル藥劑ヲ用井ルトモ之ヲ驅逐スルコト能ハサルヲアリ  
此他尚動物體中ニ生スル蟲類數多アリ或ハ獸



類ニ居リ或ハ鳥類ニ居テ其總計大凡千二百種  
アリト云フ

第三目

水母類

此目ノ動物ハ海中ニ棲息シ稀薄ナル凝液ノ塊  
リタルモノ、如ク見ユレヒ其體ヲ膨脹收縮シ

第千九十二圖



アカレバ

テ以テ水面ニ泛浮シ常ニ大群ヲ  
成シ夜間ニ至レバ燐光ヲ放テ海  
中ヲ照ス者ナリ又此目ヲ海蕁麻  
ト名ク其故ハ手ニテ之ノ搦メハ  
蕁麻ニ觸シ如ク竦然タル辛痛ヲ

覺

覺エバ九日ハ...

水母屬

此膠質動物ノ一屬ハ植物家ノ花繖ト  
名クル菌頭ニ似タル凸圓形ノモノヲ具セリ或  
ハ口ヲ有スル如ク見ユルモノアリ或ハ花繖上

第千九十三圖



カツラノエボシ  
ヒーサリア

ニ鬚ヲ具シ之ヲ以  
テ其餌食ヲ吸入ス  
ルモノアリ最尋常  
ノ種ハ洲潮ノ際佛  
蘭西ノ海岸ニ居ル  
モノニシテ此種ノ



花繖ハ直徑大凡二尺アリ水母ノ種類ハ殆ト各所ノ海中ニ散布シテ又鯨魚ノ餌食トナル茲ニ記載セル圖ハ「ヒーサリア」ト名クル水母ノ一種ヲ示スモノナリ

第四目 植蟲類

此目ハ多肢動物綱中ノ最大最奇ナルモノ、一目タリ其動物ハ形體圓錐狀ニシテ體ノ中心ニ口ヲ有シ其周圍ニ鬚ヲ生ス某種ハ植物ノ形體ヲナシタル巢ヲ有シテ其形狀ハ總テ植物ニ異ナラス又此目ノ動物ハ目ト口ト血液循環ノ機

第一千九十四圖



植蟲ノ作ル珊瑚類

關並ニ呼吸器機關ト云具ニナル者ニシテ大概其生活ハ勢力ハ體中ニ布漫セリ故ニ世人若シ其ノ一片ヲ切斷スレハ切片速ニ成長シテ全備ノ者トナルベシ斯ク成長スルコト萌芽ヲ出ス景況トハ大ニ植物ニ似タリ往々此動物ノ多數相共ニ固着レテ一個ノ聚成動物ニ化シ其各自ノ生活トヲ為スモノ



アリ又此動物ノ過半ハ自然堅石ノ如ク固着セ  
ル巢ヲ造リテ其中ニ居住セリ  
淡水植蟲 スズキ、アト、カ、ビ、ニ、メ 此動物ハ凝液ノ小塊ノ如キ形體ヲ  
ナシテ溝渠ノ水底或ハ葉ノ裏  
面等ニ居ル者ナリ海植蟲中ニ  
テ最著名ノモノハ イモボタン、ウミワタ、イシ 石芝海綿石  
コラリン、スポンジ、ボム 梅等ナリ石梅ハ美麗ニ枝榦ノ  
生レタル茂樹ノ形狀ニシテ往  
々恰モ灌木園ノ如ク海中ノ深  
所ニ造成セリ者ナリ其植蟲ハ

第千九十五圖



石梅蟲ノ造リシ石質ノ  
物體之ヲ腦石ト名ツ

至微ナルモノニシテ其水面上ニ抽出セル植蟲  
ノ巢ノ孔穴ハ見エ難シト云フ

第千九十六圖



石芝

海綿植蟲 スポンジ、ボム 此植蟲ハ凝液ノ一塊  
ヨリ成ル者ニシテ海綿ノ孔穴中  
ニ棲息シ其孔穴ヨリ餌食ヲ受容  
セリ腦石ハ石灰質ノ物ヨリ成リ  
タル大巢ヲ一處ニ合集レテ其孔  
穴中ニ棲息スルモノナリ其工作  
ノ廣大ナルヲハ全世界中ノ人工  
ニ超過セリ太平洋諸島ハ大概海

博物學 卷九 手 文部省



底ヨリ此小動物ノ建築シタルモノトス現今地球中ノ某山ハ元來此動物ノ造リタルモノト想定セリ貿易ノ物品タル珊瑚モ亦植蟲ヨリ産スルモノナリ

一種ノ石芝ハ紙片ノ如ク薄クシテ其中心ヨリ

四方ニ射出スル光線ノ如キ形狀ヲナセリ

菟葵イッキンナヤシ 此奇ナル動物ハ其種數多アリテ某種

ハ亞米利加ノ海濱ニ尋常ノモノイナリ昔時ハ菟

葵芥ヲ植物中ニ列シタリトモ運動スベキ勢力

アリテ大概海中ノ巖石ニ粘着ス又其脚ヲ切斷

ハルトキハ速ニ之ヲ補ヒ常ニ海中ニ産スル處

ノ見ル可ラサル微蟲ヲ餌食ス

第五目 顯微鏡蟲類

此目ノ動物ハ至微極細ニシテ顯微鏡ノ發明以

來發見シタル者ナリ若シ此鏡ナクバ決シテ之

ヲ見ルコト能ハサルベシ又此動物ノ過半ハ膠質

ノ體軀ト甚單一ナル機關トヲ有シ凝液シユカリノ小塊

ノ如ク見ユル者ニシテ大概動植兩物ノ質ヲ混

合セル水中或ハ熱シタル空氣及日熱ヲ受容セ

ル水中ニ居ル者ナリ顯微鏡ヲ以テ之ヲ窺フト



キハ蛇類及蚯蚓ノ如キ形體ヲ有レテ甚敏捷活潑ナルヲ瞭視スベレ  
顯微鏡ヲ以テ細心ニ此微蟲ヲ視タル人ノ説ニ  
二個ノ微蟲相共ニ他ノ一個蟲ヲ捕ヘテ其兩端  
ヲ握リ互ニカヲ極メテ之ヲ左右ニ牽引レタリ  
ト又時トシテハ一個ノ微蟲ハ其餌食スベキ蟲  
ノ甲端ヲ食ヒ他ノ微蟲ハ乙端ヲ食ヒテ雙方ヨ  
リ食ヒ近ツキ遂ニ兩口相接スルニ至ル此時兩  
蟲ハ暫時ノ間食事ヲ止メ中央ヨリ之ヲ斷テ各  
其一片ヲ携ヘテ退去レタリト云フ

斯ク二個ノ微蟲一個ノ蟲ヲ争ヒ食フ間ニ兩口  
相接スルトキ甚奇ナル争鬪ヲ起ス「往々之ヲ  
リ斯時最大ナル微蟲ハ争フ所ノ餌食ト共ニ小  
ナル敵手ヲ捕ヘテ之ヲ吞ムコトアリ然レドモ其  
吞コレタル不幸ノ微蟲ハ却テ之カ爲ニ幸ヲ得  
ルモノ、如シ蓋吞マレシ處ノ不幸ナル微蟲ハ  
渠ノ腹中ニ大約一時間モ留マリタル後争鬪ノ  
淵源クル餌食ヲ携ヘ無害ニシテ腹外ニ突出ス  
ト云フ  
コロチーリス屬 此屬ハ沼澤ニ生シテ絶ス其形



體ヲ變化セリ一瞬ノ間ニ圓形トナリ後又樹枝  
 様ノ形體トナル斯ノ如クシテ甚シキ變化ヲナ  
 スモノナリ  
 醋鰻 海ニアルニシテ 此動物ハ二唇ヲ具ヘシ口ト食道トヲ有  
 スルモノニシテ常ニ醋ノ中ニ栖處シ縱令醋ノ  
 凍互スルコアリトモ決シテ凍死セズト云フ  
 輪蟲 ホニルアアル 此動物ハ車輪ノ如ク軸上ニ回轉セル圓  
 形ノ體軀ヲ有シ衆多結合シテ往々一塊トナル  
 モノアリ其回轉スルトキハ水中ニ渦紋ウヅヅヲ起シ  
 テ其渦中ニ微蟲ヲ引キ入レテ之ヲ捕ヘテ餌食

ース

極微蟲 此動物ハ世人ノ認知セル諸動物中ノ  
モナリ 至微極細ナル者ニシテ只其運動力ヲ有スル  
 因リ之ヲ生活物ト定ムルノミ其一種ハ梨子ノ  
 葉肉中ニ棲息セリ又水ノ一滴中ニ此至微ナル  
 動物ノ算ス可ラサル大數ヲ含蓄ス云フ

神原芳野 校

具氏博物學卷之九終

博物學 卷之九 五三



